



# きぼうのいずみ

蘇原第二小学校  
学校だより  
第8号

令和3年11月25日

ふるさと蘇原、ふるさと各務原を学ぶ

校長 奥村 美樹恵

今、この各務原、蘇原で元気に育つ子供たち。子供たちにとってふるさとである蘇原の町、そして、各務原市をもっともっと知り、子供たち自身の将来の生き方につなげてほしいと願い、今年「きぼう（総合的な学習の時間）」と「生活科」において、「ふるさと蘇原、ふるさと各務原を学ぶ」学習に全校で取り組んでいます。

例えば3年生では、『蘇原博士になろう！』をテーマに、自分たちが暮らす蘇原の町の「人、こと、物」にスポットを当て、子供たちが知らなかった秘密を沢山見付け、学んでいます。

中でも、六軒シニアクラブの皆様からは、昔の蘇原の様子を写真で見せていただいたり、蘇原の町を流れる境川に生息する生き物や、古くから守られ今に引き継がれている「お祭り」についてお話を伺ったりしました。祭りに込められている願い、祭りの様子、そして祭りを守り引き継ぐ思いなども聞かせていただいたり、実際に御神輿を見せていただいたりして、子供たちは知らなかった蘇原の町に興味を持ち、目を輝かせて自分から尋ねる姿も見られました。また、六軒シニアクラブの皆様のご協力を得て、六軒商店街に出かけ、いろいろなお店の方にインタビューをしています。

「どんな商品がお薦めですか？」「どんなことが大変ですか？」など、お店の方の思いを聞き、蘇原の魅力を子供たちなりに感じています。

「どんな商品がお薦めですか？」「どんなことが大変ですか？」など、お店の方の思いを聞き、蘇原の魅力を子供たちなりに感じています。

また1年生では、学びの森に「秋見つけ」の学習で出かけました。そこで、日頃子供たちの登下校を見守ってくださっている「見まもり隊」の方が子供たちと一緒にあって、いろいろな木の実やきれいに色づいた葉を集め、子供たちの学びを支えてくださいました。校外の学習が初めての1年生、またきれいな公園でいっぱい自然を満喫する子供たちに、温かい声かけをしていただいたり、時に見守ってくださったり、子供たちは大喜びでした。

このように学習を進める中で、いろんな地域の方と出会うことで、子供たちはその方から沢山の事を学ばせてもらっています。人の思い、生き方に触れることで「素敵だな」「すごいなあ」「僕もやりたいなあ」と子供たちの心は動きます。それが「つながる」ということだと感じました。感受性豊かで、好奇心旺盛な子供たちが、もっともっと「ふるさと蘇原、ふるさと各務原」を知ることによっていろんな「つながり」ができ、そして子供たちの心が動き、子供たち自身の生き方につながっていくのではないかと考えています。10年、20年先の子供たちの活躍を楽しみに、これからもこの学習に取り組んでいきます。

